

今週（6月28日から7月2日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、無担保コールO/N物は、四半期末越えとなる30日こそレートが低下したものの、それを除けば前週に続いて動意に乏しい展開となった。レート目線は、都銀業態で▲0.08～▲0.04%程度、信託・証券・外銀業態で▲0.07～▲0.035%程度、地銀業態で▲0.05～▲0.01%程度の気配で推移した。加重平均レートは、30日は▲0.050%とビッドが減少したことで低下したが、それ以外の日は概ね▲0.03～▲0.02%台後半で推移した。ターム物は、ショートターム物で▲0.03～▲0.01%程度の出合いが見られた。日銀当座預金残高は、各種の金融調節や財政受け払いを受け、530兆円台半ばで推移していたが、2日は税揚げや10年債の発行等の要因で529兆円程度まで減少した。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.095～▲0.065%程度の水準で推移した。月末に絡む取引で一時的に▲0.095%程度まで低下したほか、積み期後半に入ってからレートを上昇傾向で推移した。

SC個別銘柄では、5年140～147、10年350～363、20年170～176、30年60～70、40年9～13などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、特段の材料もなく動意に乏しい中、閑散なマーケットとなった。

29日に行われた短国買入オペは、前回と同額の1兆2,500億円でオファーされ、平均落札利回較差、按分落札利回較差ともに+0.004%と、やや弱い結果となった。前回のオペに引き続き、1Y物の在庫の重さが意識される結果となった。

2日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.101～▲0.100%の出合いが見られる中、平均落札利回▲0.0998%、按分落札利回▲0.0962%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.100%での出合いが見られるなど、底堅く推移した。

29日に発表された国庫短期証券の買入れ方針では「金融市場に対する影響を考慮しながら1回当たりのオファー金額を決定する。」と発表された。3月19日に発表された文章では買入金額のめど（5,000億円～3兆円程度）が記載されていたが、それが削られた形となった。

●CP市場

今週のCP市場は、週初の発行日が四半期末に該当したことから、石油・商社・電力から500億円前後の大型発行があったことに加え、100～300億円前後の案件も多く実施された。30日は、入札総額6,500億円に対し、償還は1兆9,500億円と大幅な償還超であった。その後、発行日が7月入りしてからは、石油・鉄鋼等の業態を中心に期初の再調達にコンスタントに行われたことで、週間の発行総額は16,000億円強となった。発行残高は、6月末は四半期末の大量償還により22兆4,000億円強まで落ち込んだものの、期初には23兆円台に戻すなど、再調達が順調に進んでいることが窺える。発行レートは、発行残高の少ない銘柄は、引き続き深いマイナス圏で推移している。その一方で、発行残高の多い銘柄では0%近辺での調達となることも散見された。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
6/28（月）	29,048.02	0.055	110.69	△ 0.030	△ 0.083	5,343,900
6/29（火）	28,812.61	0.055	110.52	△ 0.029	△ 0.095	5,354,300
6/30（水）	28,791.53	0.055	110.50	△ 0.050	△ 0.082	5,379,100
7/1（木）	28,707.04	0.050	111.09	△ 0.030	△ 0.081	5,355,400
7/2（金）	28,783.28	0.040	111.60	△ 0.027	△ 0.075	5,295,500

来週（7月5日から7月9日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/5 (月)	7月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				New York祝日(Independence Day,observed)
7/6 (火)	5月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 5月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30)	30Y 9,000億円 7/7発行	交付税借入 11,000億円 7/16借入		6月のISM 非製造業景況指数
7/7 (水)	6月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 5月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)				
7/8 (木)	6月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 5月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50)	TB6M 34,000億円 7/12発行	5Y 25,000億円 7/9発行		5月の米消費者信用残高
7/9 (金)	6月のマネースtock(日銀 8:50) 5月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB3M 53,000億円 7/12発行	エネルギー 対策借入 8,000億円 7/20借入		5月の米卸売売上高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/5 (月)	700	▲ 5,900	▲ 5,200	国債買入 ETF買入		10,700 600	11,300	6,100	TB3M発行▲60000償還64800
7/6 (火)	1,000	1,000	2,000				0	2,000	恩給
7/7 (水)	0	▲ 9,000	▲ 9,000	全店共通	▲ 3,800		▲ 3,800	▲ 12,800	30Y発行▲9000
7/8 (木)	0	3,000	3,000				0	3,000	
7/9 (金)	0	▲ 21,000	▲ 21,000				0	▲ 21,000	5Y発行▲25000
週 間 合 計	1,700	▲ 31,900	▲ 30,200	—	▲ 3,800	11,300	7,500	▲ 22,700	

7/5は日銀予想、7/6以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期終盤となり、取り調整からレートは上昇方向での推移が予想される。また、9日には「2021年7月積み期間に適用する基準比率」が発表される予定となっている。新型コロナオペの金額次第ではあるが、18.0%程度（6月：19.0%）を予想する。レボ市場は、GC T/Nは、参加者のスタンスに大きな変化がなければ▲0.080～▲0.065%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、8日に6M物、9日に3M物の入札が実施予定となっている。3M物は発行額が減額（60,000億円→53,000億円）となっており、需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、6日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、発行残高がどの程度まで回復するか、注目される。

主要なイベントは、特段無い。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入